第16回阿武隈川水系河川整備委員会　議事概要

日程：令和５年１２月１３日（水）１４：００～１６：００

会場：エルティ ウェディング・パーティ エンポリアム

○：委員からの質問・意見

●：事務局からの回答

議事：阿武隈川直轄河川改修事業の再評価について

○貨幣換算できない指標について、30年のプロジェクト全体の効果を示すだけでなく、再評価を5年おきにやっているため、整備途中時点での浸水防止効果を段階的に示した方が事業進捗が分かりやすいのではないか。

●資料中では事業実施前と実施後に限定しているが、都度都度の効果を分かりやすく見せていければいいと考えている。

○貨幣換算化されていない項目の効果について、河川整備計画規模はどの洪水を想定しているのか。

●河川整備計画規模は、昭和61年8月洪水である。

○名取川のB/Cは、マニュアルの改定によって2.8倍程度に増大している。阿武隈川水系では、実績の氾濫域を踏まえて氾濫シミュレーションを精査した結果B/Cが低下したとのことであるが、具体的にどのようにB/Cへ影響しているのか。マニュアル改定による増加分や実績に合わせた氾濫シミュレーションによる低下分が見えるような資料をつけていただきたい。

●マニュアルの更新によってB/Cは増加傾向にある。氾濫シミュレーションによる精査は、シミュレーション上では浸水しているエリアでも令和元年の台風の実績では浸水していない箇所などをより現実に即した形になるようモデルを精査して修正したということである。資料については今後工夫していきたい。

○事業の進捗状況について、堤防の量的整備が進捗率82%と書いてあるが、例えば岩沼、寺島・押分では2.2キロで100%となっている。これは前の事業で終わっているという形で見てよいか。また、郡山の御代田は合計72.2%ととなっているが、パーセントの意味を教えていただきたい。

●指摘いただいた寺島・押分地区を例とすると、東日本大震災で被災した災害復旧分について、計画上予定されている復旧延長を終えているという意味合いで進捗を100%としている。

○整備計画上の堤防の量的整備が大分残っていると記憶している。そのような状況が見えるような形で整理があった方が良いのではないか。

●資料上に全体の数量や残事業の数量を示したものがある。これらをパーセンテージ等で示したものがあるとなおよいと受け止めた。

○流域治水の一環として治水ダム以外で治水容量が確保できたという表は良いが、例えば郡山市では、疎水関係との協力やため池の容量もある。資料上の容量確保に係る協定は県営ダムだけのものか。

●資料に記載してあるダムは、利水ダムや農水ダムも含めている。

○流域治水の範疇で行われ、出水に効果がある事業を整備計画ではどのようにカウントするのか。流域治水のカウントの中で、流量に対して効果的な施策が展開されているが、整備計画との切り分けをどのように考えていくのか、将来的には一体となった方わかりやすいのではないか。

●指摘いただいた内容も踏まえて、現在新しい整備計画の見直しを進めている。昨年度変更した基本方針には流域治水を反映した形にしているが、整備計画ではそれらの取り組みの効果を定量化して反映できないか検討中である。

○亘理町では、下水の雨水管渠の分を阿武隈川に抜いているが、それ以外の山地や市街地、農地に降ってはけない分は農業用の排水機場を使って鳥の海や太平洋に排水している。このような所に今後手を差し伸べていただきたい。

●鳥の海周辺への流域治水が乏しいのはごもっともな意見であり、充実を図ること

を考えている。ちょうど来週には逢隈小学校の出前講座を予定しており、そのような地道な取組も含めて、亘理町と連絡、連携を取り始めている。今後は、そのような取り組みをさらに広げていきたいと考えている。

○今後、流域治水を展開するときには、流域プラス氾濫地域や末端で利水だけその川に関係するというところも含めて、広く流域を定義して取り組みを検討いただきたい。

●集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて総合的に考えて流域治水を実施していきたい。事例として、北上下流管内の吉田川では高城川が立体交差しているが、そちらの取り組みでは、集水域は違うが氾濫域は一緒になるということで、集水域と氾濫域が一体となった流域治水を進めている。

○氾濫シミュレーションにおいては、本川からの氾濫のみを扱っているのか、あるいは合流部みたいなところの支川からの氾濫も含めているのか。

●本川からの氾濫を想定している。

○逢瀬川、谷田川や釈迦堂川では合流部で背水の影響を受けて支川から氾濫していることもあると思う。阿武隈川の整備によって支川の水害が緩和されるのか悪化されるのかはわからないが、今後本川の整備が進むことによる合流部あるいは支川での影響も考えた方が良いのではないか思う。B/Cを考えるときにそれも一部含めてもいいのではないか。

○魚類について、震災、原発事故以降河川の水産業も低迷しており、組合員も減っている状況ではあるが、生物多様性の観点からもSDGs的にも重要なポイントが含まれていると思うので、引き続きご配慮願う。また、水の中だけでなく、湿地や高水敷についてもアドバイスを受けながら方針を決めているということが書いてあるので、今後も特に記述すべき、自慢になるような事例が出ることを期待している。

○環境重視や防災重視に偏らず、バランス重視の取り組みを期待する。流域治水では、あらゆる関係者と一緒に行うことを絶対に忘れてはいけないことと考え、そ

れをサポートできるようなアウトリーチ活動のほうも重点的にやっていただくことを望む。

○阿武隈川水系河川整備計画の変更について、今後どのように変更されるのか、それを期待している。

○気候変動による降雨量も反映した計画だと思うので、支川の流域についても治水安全度が向上し、持続的、継続的な発展が図られることから、引き続き推進をお願いしたい。

○委員の先生方から言われた意見の中には、反対意見はなくもっと積極的に展開して欲しいとの意見が多かったと承った。事業の必要性は、B/Cが全体事業で2.2、残事業で2.9ということで投資効果が期待できる。それから、見込みの視点として、令和10年度完成目標に新規遊水地を目指すということで新たな取り組みも含まれている。それから、コスト縮減、貨幣換算が困難な指標による評価も確認した。特に、地方公共団体の意見では異議なくこのまま継続して欲しいとのことで、対応方針としては費用対効果も確保されており、引き続き事業を継続することが妥当と考えるという原案が出されているが、そのままお認めいただいてよろしいか確認したい。

○（全委員）反対意見なし。

○それではこの方針に従って進めさせていただく。

●阿武隈川直轄河川改修事業の再評価について、事業の継続は妥当と判断するということで、本審議結果について東北地方整備局事業評価監視委員会のほうに報告させていただく。また、審議結果には記載していないが、皆様から頂戴したご意見は今後の事業を進めるに当たって反映させていただきたい。

○取りまとめ、ご説明いただいた内容についてご質問、ご意見等はないか。それでは、この事業の継続は妥当と判断するということでまとめさせていただく。

情報提供：阿武隈川緊急治水対策プロジェクトの進捗について

情報提供：阿武隈川水系河川整備基本方針の変更について

情報提供：特定都市河川の指定に向けた取り組み状況について

情報提供：流域治水プロジェクト2.0について

○降雨量1.1倍、流量1.2倍で方針決定された。そうなると河道配分流量、それから流域の貯留分もかなり増えており、これを守る側として達成するには大変だろうなと感じている。支川側を考えてみると、流量の1.2倍というのはかなりハードルが高いと思っている。したがって、その目標の達成のためにはかなりの努力が必要になるが、まず第一には安全対策が最優先になるということだと思う。新たな整備計画も策定されていくという話があったが、これは、現在進行している流域治水プロジェクトと一体に計画が進んでいくのだろうと思っている。そして、特に特定都市河川の指定のお話しもあったが、これは安全に向けてかなり法整備が充実してきたと感じている。したがって、新たな関連法も整備させていただいて、安全確保に向けて進めていただくことを期待する。流域の市町村においては水害の発生を見越した計画になっていくということで、都市計画もこの水害の発生を見越した計画に直していかなくてはいけないのではないかという気持ちを強くしている。例えば頻繁に水没する地域であれば、水没しない避難道路や物資輸送の道路の確保などは都市計画として当然計画可能な内容になってくるということである。もう一つは、安全を担保する地域づくりのための支援について、避難地図を作ったり、地域の避難計画の作成に協力したりなど、安全を確保するための支援というのをしっかりお願いしたいと思っている。

○阿武隈川でも河道掘削や遊水地の整備を進めているが、そういった整備が恐らくこの３河川（逢瀬川、谷田川、釈迦堂川）によい効果、つまり浸水被害を減らす効果をもたらすと考えている。その一方で逢瀬川、谷田川、釈迦堂川の３河川で特定都市河川によって流域治水が進むことによって、阿武隈川の浸水被害軽減にも結びつくと捉えている。そのため、本川の整備とこのような支川の整備がうまく連携することによって、効果的な対策に進むのではないかと捉えている。